

ホスピタリティ・マネジメントと観光との新たな潮流

2026 年を迎え、21 世紀の四半世紀を終える年となりました。この間、日本は「観光立国」に象徴されるように、20 世紀型の工業主導の経済体制から、大きく様変わりをして参りました。観光立国がインバウンド振興によって現実的なものとなり、日本の観光分野の GDP 貢献度が年々上昇するなど、飛躍的な成長を遂げました。

観光におけるホスピタリティの要諦は、安全の確保および不安点を徹底的に除去することにあります。しかしながら、観光産業をはじめとするホスピタリティ産業における課題は、数多く存在しています。オーバーツーリズム問題を皮切りに、少子高齢化による観光の担い手の人財不足や地域都市の衰退が引き起こしたインフラ縮退問題など、各地で問題が噴出しています。それを象徴するかのように、2025 年には埼玉県八潮市での道路陥没事故や、北海道や東北地方で発生したクマ被害など、日本の安全神話は確実に崩壊の一途を辿っているのが実情です。一方で、国際社会においても地政学的な政策課題や民族性による紛争や対立が後を絶たず、あらゆる面で危険が孕んでいます。そして日本も例外ではなく、憲法改正の機運が高まり軍事面での備えが叫ばれるようになってきています。

しかしながら、社会的な課題が多いということは、ホスピタリティ全般における研究や学術の分野においては大きな好機であり、まさにフロンティアであると言えるでしょう。

こうした中で、多くの学術領域の研究者により構成された本学会では、国内外の著しい変化に対応し得るホスピタリティのあり方について、今後もますます活動を深化させ議論を深めていくべきであると考えられます。

2025 年度は大成功裡を収めた大阪・関西万博に当り、第 33 回全国大会は深瀬澄先生をはじめとする大阪経済法科大学の皆様方の絶大なご協力のもとで、11 年ぶりに関西で開催し大盛会となりました。また、北海道、関東、関西、九州の各支部部会も開催され、藤井前会長の卓越したリーダーシップのもと、ホスピタリティ・マネジメント学会が完全に復活し、新たな躍動を遂げました。四年間にわたる藤井享前会長のご功績を引き継ぎ、新たな歩みを進めてまいりたいと存じます。

学術・論文委員長の五十嵐元一先生におかれましては、永年に亙り本学会誌の発刊に多大なるご尽力を賜り、本学会誌の確固たる基盤をご構築賜りました。衷心より厚く御礼申し上げます。そして、今回も素晴らしい論考の数々をお寄せいただきました会員の皆様に、厚く御礼申し上げます。藤井前会長、五十嵐先生のご尽力に報いることができますよう、充実した学会および学会誌の創造に務めてまいりたいと存じます。どうか今後ともご指導ご厚情を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2026 年 3 月吉日

日本ホスピタリティ・マネジメント学会
会長 崎本 武志